



イオンリテール

需要予測・AIオーダー開発  
作業軽減、適正在庫に効果

イオンリテールは、独自開発のAI需要予測・PI値の算出については過去の実績に加え、AIの取組みや新システム「AIオーダー」の発表説明会を4月20日に開催した。

発表説明会では山村卓也システム企画部長が同社のAIの取組みや新システム「AIオーダー」について説明。同社はこれまでにもAIが適切な値引率を提示する「AIカカク」、映像を自動解析し接客や年齢確認などの業務につなげる「AIカメラ」、適切な勤務計画を作成する「AIワーク」など様々なシステムを開発・展開している。

新システム「AIオーダー」は、AIの予測した来店客数とAIとPI値に基づき商品ごとに発注数を算出するもの。PI値の算出については過去の販売実績に加え、カレンダーや気温、プロモーション、値引き、カニバリなどを学習し既存のシステムと比べて発注精度を大幅に改善している。発注精度の改善は作業時間の軽減のほか、チャンスを減らし在庫削減などの効果もある。なお、最適な需要予測を提示することで、より上流のサプライチェーンのDXにもつなげ、物流2024問題への対応も進める。

日配部門で先行導入した店舗では、これまでのシステムでは捉えられなかった特売などの価格変更時等にも対応し、平常時の発注過多の削減効果も生じている。売上・売変・粗利・欠品の各評価項目で改善効果があり、現在はデイリーのみであるが、今後は他食品部門や衣料シーズン商品やホームファッション商品にも拡大し、物流センターデータとの連携も図る。

山村システム企画部長は「AIオーダーは店舗での発注作業に関する時間を軽減し、さらに在庫の適正化により商品補充人時についても削減。これにより店舗の人員が接客や売場メンテナンスにシフトできるようなる。現在の導入は100店舗だが、5月初旬には380店舗に拡大する。引き続きAIオーダーの対象カテゴリーの拡大、さらにAIオーダーとAIカカクとの連携や最適化など物流・システム課題に対応できる一気通貫したデジタル化を目指す」と述べた。

森永製菓「inバー」  
ヌートバー選手と広告契約

森永製菓はWBCで活躍した大活躍選手、ヌートバー選手と広告契約を締結したことを発表した。

ヌートバー選手は同社「inバー」の広告に起用するもので、4月末からはヌートバー選手が出演する新CMを公開している。「inバー」シリーズはバラエティに富んだ商品を各種発売。運動後のタンパク質補給や仕事の間食などに最適で、手軽にタンパク質のほかにルチン、ビタミンB群7種などの栄養素が美味しく手軽に摂れる商品として人気となる。アイテム



「inバー」の広告に起用するもので、4月末からはヌートバー選手が出演する新CMを公開している。「inバー」シリーズはバラエティに富んだ商品を各種発売。運動後のタンパク質補給や仕事の間食などに最適で、手軽にタンパク質のほかにルチン、ビタミンB群7種などの栄養素が美味しく手軽に摂れる商品として人気となる。アイテム

自然のおいしさ!!  
**ゴジマ ジヤム**  
小島食品製造株式会社  
本社 東海市名和町一番割中25  
電話 (052)603-3511  
ジミー坊

客や売場メンテナンスにシフトできるようなる。現在の導入は100店舗だが、5月初旬には380店舗に拡大する。引き続きAIオーダーの対象カテゴリーの拡大、さらにAIオーダーとAIカカクとの連携や最適化など物流・システム課題に対応できる一気通貫したデジタル化を目指す」と述べた。

新型コロナウイルスの感染防止の位置づけが2類相当から5類になった。マスク着用を含めたコロナ対策は大きな転換点を迎える。

アルコール消毒やパテーシヨンの設置、会話・会合を控えるなど、企業や小売店、飲食店、工場など、食に携わる多くの人に強いられきた様々な作業や金銭的な負担からいよいよ解放される。

来店客が入り替わるときに机やメニューに消毒作業をする飲食店の従業員の方々、工場や物流倉庫、屋外での作業時など暑い環境下のマスクを外せない作業員の方々を見るたびに感謝の念を覚えた。また、コロナ期に入院した身として、病院関係者の心身への負担も想像を絶する大変さであった。

これまでコロナ対策に割かれた膨大な時間や経費、時間が本来の業務に当てられ、多くの人々がコロナ対策の作業から早期に解放される事を切に願う。

野菜ブランド戦略の共同検討及びその推進・具現化「農業総合研究所の有する顧客接点を活用した販売・マーケティングの実践」両者間における販売支援、両社協働に係る諸施策の検討・推進」として、両社のリソースを活用し付加価値の高い農産物及び新規事業の共創を検討し、進捗状況や結果に応じて両社の関係を強化していく。

※写真はイメージです

国分グループ  
シンガポールに4温度帯開設

国分グループ本社は、シンガポールで物流事業を展開するCommonwealth Logistics Pte. Ltd. (本社・シンガポール) が4温度帯物流センター開設プロジェクトを立ち上げたことを発表した。稼働予定は24年10月。

国分グループとCommonwealth Logistics Pte. Ltd. は2018年に低温物流事業を行うCommonwealth Logistics Pte. Ltd. を合併して設立。シンガポール国内の外食事業者、小売事業者の物流受託業



り、シンガポールをハブとして、拡大する近隣諸国の低温食品コールドチェーンの物流需要を支えていく考え。日本から進出する食品メーカーや、

外食チェーン、また小売企業に、日本国内と同等の高品質の物流サービスを提供するとともに、アセアン地域でのさらなる事業推進に努める。

新センターの対応カテゴリーは加工食品や青果など。敷地面積は1万9千㎡で、冷蔵倉庫1万6100㎡、冷蔵倉庫3千㎡、常温倉庫、事務所等各8700㎡、事務所等は2900㎡。収容能力は最大8万パレットを収容できる保管機能を具備。また物流品質を高める大型冷凍自動倉庫や仕分けマテリアルハンドリングなども完備。さらにCO2排出削減に寄与する最大5500㎡の太陽光発電パネルの設置など環境面にも配慮する。

「サントリー生ビール」好発進、5月計画比約2倍

サントリーが4月4日に新発売した「サントリー生ビール」は、4月12日に伸長した。また、「サントリー生ビール」の発売週のユーザーのうち、約半数を「新規・ライト層」が占めており、ビールカテゴリーの開口拡大にも大きく寄与した。

今回の好調要因として挙げられるのは、同品の「グッとくる飲みごたえ」「飲みやすさ」とした「飲みの中味・味わい、さらにはシンプルで斬新なパッケージ」で、すべての人の1日の終わりをねぎらい、生きる力を後押しする」としたメッセージに込めたコミュニケーションが支持を得たなどの点。好スタート及び今後も

ハウス食品グループ本社、産直流通のリーディングカンパニーの(株)農業総合研究所(本社)と和歌山県)と資本業務提携を締結した。

今回、両社は提携を通じて保有するリソースを融合することで、農産物を通じての新価値を共創し、相互の事業発展と新規事業の創出を検討する。資本業務提携の内容は「両社のリソースを活用した

新型コロナウイルスの感染防止の位置づけが2類相当から5類になった。マスク着用を含めたコロナ対策は大きな転換点を迎える。

アルコール消毒やパテーシヨンの設置、会話・会合を控えるなど、企業や小売店、飲食店、工場など、食に携わる多くの人に強いられきた様々な作業や金銭的な負担からいよいよ解放される。

来店客が入り替わるときに机やメニューに消毒作業をする飲食店の従業員の方々、工場や物流倉庫、屋外での作業時など暑い環境下のマスクを外せない作業員の方々を見るたびに感謝の念を覚えた。また、コロナ期に入院した身として、病院関係者の心身への負担も想像を絶する大変さであった。

これまでコロナ対策に割かれた膨大な時間や経費、時間が本来の業務に当てられ、多くの人々がコロナ対策の作業から早期に解放される事を切に願う。

野菜ブランド戦略の共同検討及びその推進・具現化「農業総合研究所の有する顧客接点を活用した販売・マーケティングの実践」両者間における販売支援、両社協働に係る諸施策の検討・推進」として、両社のリソースを活用し付加価値の高い農産物及び新規事業の共創を検討し、進捗状況や結果に応じて両社の関係を強化していく。

※写真はイメージです

濃厚な味わいともっちり食感を、1袋まるごと楽しめるデザート

杏仁霜使用 濃厚ミルクの味わい

濃厚マンゴープリン

杏仁豆腐

杏仁豆腐

マンゴープリン

マンゴープリン

冷凍も美味しい!

※写真はイメージです